２００７．１．１

No.１４３

編集　樋口　みな子

E-mail
minginga@agate.plala.or.jp
郵便振替
「銀河通信」02740－7－56535
（６号分1,000円）

新しい年を迎えて

明けましておめでとうございます。

昨年は２年半に及ぶ、宗谷岬から白神岬までの１１３２kmに及ぶ北海道の中央分水嶺踏査を延べ人数９６８人の山岳会員たちでつなぎました私もその一端を、怪我なくく無事に歩き通せたことが、大きな財産になりました。新米の私が歩いた分水嶺の距離は１１０km。信じられない！です。

日本山岳会に道から委託された高山植物保護パトロールは、広い大雪山系、十勝連峰の山域を仲間と共に８回行うことが出来ました。鋭く天を突くニペソツ山、どっしりとしたウペペサンケ山、清掃登山で、３０年ぶりに日高幌尻岳にも登り、感激もひとしおです。

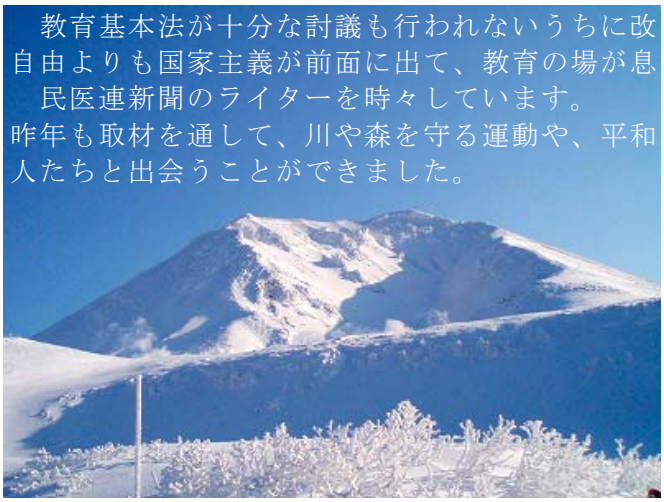
鳥取県大山で開催された自然保護全国集会で、高山植物部会のまとめの発表をしたことも、とても勉強になりました。信仰の山、大山からの、眺望も素晴らしかったです。

駒大苫小牧と日本ハムの大活躍に感動をたくさんもらいました。

一方で、子どもたちがいじめを苦に自殺する事件が相次ぎ、胸が痛みました。新聞の読者欄に、高校生が「大人のいじめを私たちはみています」という文章にハっとさせられました。

教育基本法が十分な討議も行われないうちに改正されました。個人の尊厳や、自由よりも国家主義が前面に出て、教育の場が息苦しくなるのではと心配です。

民医連新聞のライターを時々しています。昨年も取材を通して、川や森を守る運動や、平和のために地道に活動している人たちと出会うことができました。



快晴の旭岳　０６年１２月１７日

銀河通信は今年７月に１９年になります。山以外の話題も載せたいと思っていますが、読者の皆さんからの、こんな記事を載せてという情報もお待ちしています。私もできるだけアンテナを高くして、平和のかけがえのなさや、身近な自然の大切さを伝えて生きたいと思います。

今年もご愛読いただけますようよろしくお願いいたします。　　（みな子）

講演会「イラクの子どもたちを救おう」

ガフランさんとアンサムさん

昨年の１２月５日に上記の講演会が、セイブイラクチルドレン札幌の主催で、札幌市内で開かれました。お話したのは、イラクから半年間、札幌に研修している二人の女性医師（Dr.ガフランとDr.アンサム）です。

イラン・イラク戦争、湾岸戦争、そして米英軍による攻撃と占領。イラクは４半世紀にわたって戦争の当事国になり、特に子どもたちはいつも戦争の犠牲者になってきました。

現在、イラクでは、爆弾・テロなど直接的な被害の他に、湾岸戦争時に大量使用された劣化ウラン弾によると思われる、先天性障害・白血病・小児癌などが急増していること、医薬品の深刻な不足、清潔な水がない、電力供給がままならないなどの状況で、赤痢などの感染症に苦しんでいること。１年に1,000人の子どもが生まれるが、そのうち100人が1歳未満で死んでいくと訴えました。

がりがりに痩せて、おなかだけ膨らんでいる子どもの姿が紹介されて、お二人の働いている病院には満足な医療器具もない実情がわかりました。

劣化ウラン弾の怖さは、アメリカの研究者も以前の講演で語っていました。

イラクに対する軍事占領を一日も早く終結させて、早く平和になって欲しいです。

「セイブイラクチルドレン札幌」は戦争に苦しめられているイラクの子どもたちに笑顔と健康を取り戻すために医療支援を行っています。

関心のある方は、北海道民医連内の橘晃弘さん（０１１－７５８－２６４８）にご連絡ください。

映画

「麦の穂を揺らす風」（アイルランド・英・独・伊・スペイン）

ケン・ローチ監督

デミアン（キリアン・マーフィー＝左）は兄のテディ（ポードリック・ディレーニー＝右）とともに独立戦争を戦うが、やがて内戦下で対立していく

1920年、アイルランドのイギリスからの民族独立戦争を描いた映画です。

デミアン（キリアン・マーフィー）は医師への夢を捨て、独立戦争に加わります。イギリス軍はアイルランドの民族、文化を迫害し、抵抗する者の命を奪います。自由を求める若者たちは、軍事訓練をして抵抗しますが、デミアンの友人が殺されます。争議の場で流れたのが「麦の穂を揺らす風」抵抗運動のシンボルの歌です。

やがてイギリスとアイルランドが講和条約を結びますが、完全な独立とは言えない内容が含まれていて内戦になります。兄弟は敵と味方に分かれて戦うことに。医師でｓるデミアンの苦悩が胸をつきます。登場するのは普通の人々。農民であり、街で働く労働者です。

ケン・ローチ監督は、いつも普通の人々の物語だから、圧政から自由になりたいという主人公たちの思いに共感しします。ケン・ローチ監督はカンヌで「独立運動に対する国の干渉やぶりょくは、いつの時代も世界的に起きている。この作品は現代社会の反映でもある」と語ったそうです。イラク戦争への批判がこめられています。

哀愁のあるメロディがアイルランドの広大な風景に溶け込み、自由をかちとることが、なんとたくさんの血を流さなくては得られないものなのかと思いました。

平和はあるのではなくて作り出すものなのだと改めて考えさせられました。

「硫黄島からの手紙　米　クリント・イーストウッド監督

「父親たちの星条旗」との２部作で、太平洋戦争末期の硫黄島の激戦を日本側から描いた作品です。

総指揮官、栗林中将（渡辺謙）とパン職人だった兵士、西郷（二宮和也）を軸に、軍隊のという集団で、トップと庶民の感覚の違いが、鮮明です。

家族に送った、栗林の手紙が胸を打ちます。こんなにも家族を愛し、心を残しながら、もう二度と帰れないことを知りながら、戦わざるを得ない心境は察するに余りあります。

西郷は、早く妻と生まれたばかりの子どものところに帰りたいと、希望をつないでいる。米兵捕虜と心かわすオリンピック馬術金メダリストや、いつも自分の内面と向き合っている元憲兵の兵士、玉砕主義者の中尉など、いろんな考え方を持っている人間の描き方が、鮮やかです。栗林中将の人間味豊かな人柄は、西郷らにとっては救いでした。

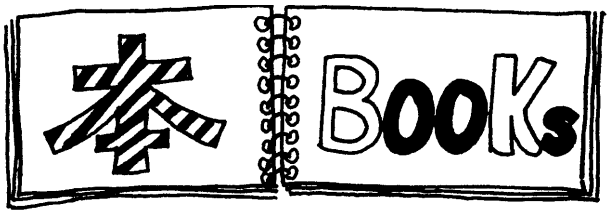
後半の激烈な戦闘シーン。一切の感傷などなく、殺すか、殺されるかだけ。目を覆いたくなるような残酷さです。

戦争とはこういうものなのだ。だからこんな戦争は二度とあってはならないとの思いがひしとわいて来ます。

イーストウッド監督は、イラクの戦争に対しても痛烈な批判を映画を通して訴えているようです。

■凍れるいのち　川嶋康男著

柏艪社　1600円



昭和38年1月1日、旭岳で遭難死した10人の北海道学芸大函館分校山岳部のパーティー。一人生還した野呂幸司さんへの著者がロングインタビューしたものと、旭岳遭難捜索報告書と野呂さんの行動記録から、45年ぶりに全容を明らかにしています。

生き残った野呂さんに遺族からの轟々たる非難が集中したのは想像がつきましたが、10人分の十字架を背負ってその後の人生を人の何倍も努力して生きて来たことに感動しました。

野呂さんのいのちの代償になったのは、凍傷による両足ショパール関節の切断。そのときの写真が生々しい。

その20年目にオーストリアでの身体障害者冬季オリンピック大会に出場。見事スキー回転で６位に入賞します。そこで目にした全盲のブラインドスキーヤーが、一切の音が消された中で「前走者が滑り、後ろにつづくブラインドスキーヤーにライトライト、レフトレフトと指示を出す。物音は風の音や木々の葉擦れの音だけ。静まり返る中でゴールした瞬間、待ち構ええいた家族や関係者が駆け寄って抱き合う。その場面を目の前にして涙が止まらなかったね」と語り、もっと大変な障害があっても明るく生きている人から学んだと以来、ンディキャップスキー大会には協力を惜しまない。あたりまえのことのように自然体な姿に共感しました。

お便り

まずは、雪山の尾根に立っている写真にびっくりです（よく登れると・・）。また、14日のみんたるでの「ハチドリのひとしずく」の記事も行かれなかったので様子がわかり、特によかったです。リーフの紹介もありがとうございました。（札幌市・Ｎ・Ｋさん）

池澤直樹「静かな大地」、静内周辺の開拓期を舞台にしたいい小説です。ぜひお読みください。（札幌市・Ｙ・Ｓさん）

■風の影 上下　カルロス・ルイス・サフォン著　木村裕美・訳

集英社文庫　７４３円（上下共）

スペインのバルセロナを舞台に、語り手のダニエルが少年から青年に成長する10年近い歳月と共に展開するミステリー小説です。

小説の背景となる時代は、1920年頃までと、内戦の時代、内戦後の時代（１９４０～50年代）であり、過去と現在を複雑な糸でつむぎ合わせ、ロマンの迷宮へと誘います。

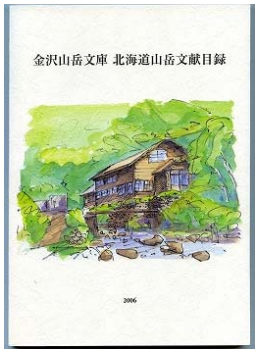
「忘れられた本の墓場」で偶然見つけた一冊の本「風の影」。その作者フリアンの過去を追っていくうちに、ダニエルの近未来への予言であるかのように錯覚させられます。

ダニエルには、フリアンが自分の分身のようにも思えて、懐かしい。

文章が素晴らしく、ぐんぐん引き込まれました。思いがけないラストに、壮大なドラマを見たときのような深い感動を覚えました。

長編ですが、主人公の行先が気になって眠れなくなりました。文章から映像が浮かび上がってくるようでした。

■金沢山岳文庫　北海道山岳文献目　斎藤俊夫追悼



発行　斎藤浪子　1800円

問い合わせ（０１３３２－３－２０５０　斎藤浪子さん）

斉藤俊夫さんが個人的に集めた蔵書のうち、北海道地域の山岳関係文献の目録。

ジャンルは山岳案内や、学術調査記録、山岳紀行、地誌等１２に分類。1425冊の目録が収められています。山岳雑誌は含まれていませんが創刊号からそろっています。これだけの山岳関係の書を個人で集められたことに驚きを禁じえません。

表紙を飾っているのは、斉藤俊夫さんのスケッチ、旧木下小屋にぬくもりを感じます。斉藤さんの遺稿や、ゆかりの人たちの追悼文から山の本に寄せる愛情と、情熱が伝わってきました。

妻の浪子さんは山の仲間であり、夫俊夫さんの「多くの人に、金沢文庫を活用して欲しい」という願いが1冊になりました。是非、金沢山岳文庫（当別金沢）にお立ち寄りください。

本は浪子さんの自宅、秀岳荘（本店、12条店）、古書店サッポロ堂にあります。

■北海道雪山ガイド 北海道の山メーリングリスト編

北海道新聞社　2100円

北海道初の本格的な雪山登山のガイドと入門書です。私も会員である北海道の山メーリングリストの仲間３２人が日帰り登山ができる１０００m級の５４山６１コースを紹介しています。

地図の読み方や、冬山装備、雪崩遭難を避ける方法、怪我をしたときの対処の仕方や現在位置の確認方法、天気図の見方など詳細に紹介されていて、これらは私もしっかり勉強したいと思いました。

写真が満載で、雪山の臨場感、楽しさが伝わってきます。私も当別丸山と沙流岳の写真撮影で協力しました。

印税は、登山道整備や、自然保護団体に寄付することになっています。

購読料をありがとう　2006年12月8日～12月23日

佐藤雅彦（利尻町）　佐々木純一（雨竜町）　東直美（札幌市）　菅沼宏之（札幌市）
斎藤波子（当別町）本田明子（札幌市）　新田啓子（札幌市）　片山篤子（札幌市）
田中さとじ（黒松内町）　坂井恒俊（旭川市）

カンパも含めての方　高橋宜也（札幌市）3,000円　久野真紀子（様似町）5,000円
皆川義隆（石狩市)5,000円　倉田収（幌延町）5,000円　杉本裕子（熊谷市）3,000円
吉野勝男さん（美幌町）から漢方薬をいただきました。

合計34,000円は、印刷、送料に使わせていただきます。ありがとうございます。

購読料は、６号分で１，０００円です。